4月 10 日（金曜日）「ダビデ（3）借り物ではなく」

【新改訳 2017】

Ⅰサムエル記17•1－40

「ダビデは、そのよろいの上に、サウルの剣を帯び、思い切って歩いてみた。慣れていなかったからである。‥‥‥ダビデはそれを脱ぎ、自分の杖を手に取り、川から5つのなめらかな石を‥‥‥羊飼いの使う袋‥‥‥に入れ‥‥‥近づいた。」（39、40節）

少年ダビデの武勇伝として有名な物語が始まります。教会学校の生徒たちにも喜ばれ、ダビデ•ファンを多くしています。

ゴリヤテは、ペリシテ軍人の代表的戦士であり、身長2•86メートルもある巨人でした。サウル王とイスラエルすべては恐れていました。その時、少年ダビデが相手を買って出ました。

長兄エリアブはダビデを叱り、王もダビデは若いから無理だと戒めました。それでも戦おうとした彼に、王は自分のよろいかぶとと剣を与え、思いやりを示しました。ダビデはそれを身につけてみましたが、慣れていないことを理由にその光栄を断って、羊飼いとしての自分の武器で戦おうとしました。名誉や義理よりも、神への信仰と自らの信仰体験で立ったのです。

～祈り～

主よ。私たちは安易に「借り物」で生きようとするところがあります。どうか、あなたがこれまで与えてくださった恵の体験を生かすことができますように。

（学びのために）本当に神に信頼するとき、「普段着」でも敵と戦えるということは大切な教訓です。主は勇気をも与えてくださいます。「自分の武器」について考えてみるとよいでしょう。